

根来山げんきの森倶楽部

令和3年9月作業日誌



朝夕と涼しくなり、お天気も良く、げんきの森にいらっしゃる方々が多くなりました。
今回の活動日は近畿大学の学生さんと一緒に樹々の整備や、修繕作業などに汗を流しました。

活動日：令和3年9月19日 9:30～15:30 天気：晴れ 倶楽部員：47名 学生：29名



学生パワーで難事業を達成!!

管理車道の支障木除去…管理車道に茂ってきた樹木が道路に張り出してきて、那賀地方消防組合から緊急の際に消防車が入っていけないとの連絡があり、これを除去する計画を立てたのですが、延長700mの車道のり面に茂っているオオバヤシャブシやアカメガシワを切ってしまうのはなかなかのハードな作業です。

幸いなことに今年の近畿大学社会奉仕実習には37人の参加者があり、彼らが3日間作業してくれると延べ100人を超える人たちと作業ができることになるので、この機会を利用すればなんとかこの難事業も達成することができるのではないかと企画した作業の最終日が今回の作業でした。

この日も学生29名と倶楽部員10名が3班に分かれて作業車道のあちこちに散らばります。私たちの班は最も高いのり面の危険区域を担当しました。3日目となると学生たちも作業に慣れてきて少しくらい急な斜面にも臆せず登ってノコギリを使います。ツルに絡まった木も多く、切り倒してもツルでつながってなかなか落ちてこない木もありました。切ったツルは木からぶら下がったままで、そのツルにぶら下がって遊ぶ学生たちも出てきます。これも3日目の余裕なのでしょう。こうした遊びも含めたすべてが私たちのボランティア作業なのだと感じながら私も一緒に遊んだりしていました。ちなみに、2日目には森づくり塾のみなさんの協力もありました。

おかげで、管理車道は明るくなって、先日消防組合の大型消防車の通行実験を行いました。難なく通行することができました。みなさん、お疲れさまでした。(岡田 和久)

いよいよ炭焼きへ

炭窯修理…本日は15名の参加がありました。5月より炭焼き窯天井修理を行い、今回初めての炭焼き作業を行います。準備作業として炭材搬入と天井ひび割れ修理です。炭材搬入は、ビール瓶より少し太い炭材を主に搬入しました。細い炭材と混合すると細い炭材が燃え尽きるため、大きさを揃える必要があります。



今回は、Hさんが積み込みを始めましたが、これから先のことを考えてMさんの指導により若手のKさんも教わりながら積み上げていきました。天井ひび割れ修理作業は1mm幅のひびを詰めた後、モグラの道跡のように土を盛っていきました。昼からは薪割り作業と搬入口の封鎖です。薪割りはサクラが多く、サクラ、リョウブ、コナラ等の炭材が集まりました。搬入口の封鎖も完了しましたが、炭焼き時に煙が出てきたら土を詰めて行こうと思います。皆様お疲れでした。どれだけの量ができるか楽しみです。(須山 佳則)



気の若い人も“本当に”若い人も

ウルシ谷整備…今回のウルシ谷の作業ボランティアは若い人おひとり、気の若い人 11 名の計 12 名。秋晴れの森の中で作業でした。今日は「イノシシ」に破壊されたウルシ谷の中央を流れる小川の補修工事です。杭は前もって 10 本用意してあったので、すぐに作業にかかりました。杭打ちは 20 歳くらいの“本当に”若い人にお任せしました。横木は気の若い方が切りました。杭を打ち、横木を並べて置き、その後ろ側に石を積

んで土をかぶせます。

休憩時には、新しく二人が参加されていたので、そのお二人に色々な質問が。「お名前は？どこから来たの？今まで何をしていたの？」などまるでお昼のワイドショーみたいににぎやかでした。午後は 5 名で石運びと草刈り作業を行いました。草刈りは午前中から一人の方がやってくれていました。溝の補修は思った以上に出来が良かったです。話には出てくるだろうと思っていましたが、案の定、藤堂高虎の家臣団「穴太衆」の話になり、日本の石垣の話になって、本日は終わりました。みなさん、ごくろうさまでした。(山口 徹)



子どもの学び場を守るため

プレーパークの修繕…午前中から 5 名の倶楽部員で、プレーパークの修繕を行いました。プレーパークの滑り台下のネットの補修・張り直しとベンチ横の手すり 3 カ所の補修、入り口付近の手作り楽器の土台の補修を行いました。

準備に際しては A さんのご協力をいただきました。ネット遊び場の補修に関しては、S さんの専門的な技能を教えていただき、ベンチ周辺は、O さんと S さんにいろんなスキルを教えて頂き作業に取り

り組むことができました。特にロープワークは、日常より取り組んでいないと技能の定着が難しいと感じています。なかなか状況に合わせた縛りを行うのが難しいところです。

めぐみと森のようちえんでは、週 1 回から 2 回程度プレーパークを使わせていただいております。プレーパークで子どもたちが遊ぶ中で多くの発見、挑戦、挫折、様々な経験とともに様々な感情を獲得しています。貴重な学び場を守るべく、今後もお力添えいただけたら幸いです。(佐道 大倫)



先月は若い学生さんたちとの作業が多かったですね。ほとんどノコギリやナタを使ったことのない世代と一緒に作業は怪我のないように気を使いますが、疲れを知らないかのように動き回る彼らの姿に自分の若い頃を重ね合わせる方も多かったのではないのでしょうか。

全く経験のない世界に飛び込んで体を動かすことへの期待。そしてその隣合わせにある不安や緊張。僕たちも若い頃はほんの些細なそんな経験にも大きく心を動かされたものでした。

そんな懐かしさもあって、僕たちも少しばかり若返った気持ちで汗を流すことができました。彼らに“ありがとう”です。(岡田 和久)

